

第七回

深掘り!

京博バックヤード

その三

(文化財

保存修理所

その一)



京博では明治の
開館以来
文化財の修理が
行われてきた



はじめは
土蔵の中で

のちに新館地下の一室や
旧収蔵庫の一部で



昔は収蔵品も
土蔵にしまっ
ていたそうす



平成知新館
の前の建物



前回紹介した
技術
資料参考館

そして昭和55年(80)修理専用の建物が
新築されました

けっこう
大きな
建物ですね

地上3階
地下1階
です

今回は
非公開の文化財保存修理所に入ります!!



明治
古都館の
東俣川にあります

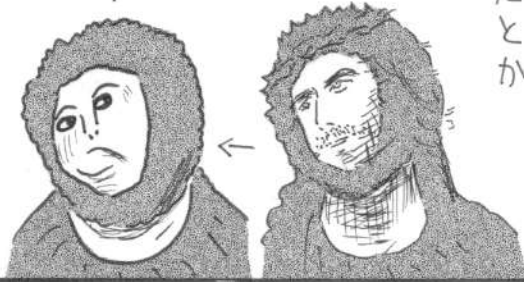
さて文化財の修理といえば

仏像を修理していたら



像内から文書や仏像が発見されたとか

スペインで
キリストの
フレスコ画を
修復
したう
えらいことに…
とか



たまにこんな
ニュースで知る程度なのですが

ここではどんな修理がなされて
いるのでしょうか



日本
では
現状
維持
修理が
基本です

という？

室長 指導 豊 嘉 部 修理 保存 学芸 大 原

修理技術で新品のように
仕上げて

わあ
どこを
修理したか
わから
ない



という修理ではなく

オリジナルな情報を残し修理
した部分は見分けがつく
ように記録を
残します



数百年後
再び
修理できる
ように
です

でもそれって逆に新品みたいに
仕上げるより手間が
かかりそう

はり現状維持の
ためにはその時代の
歴史 美術史 また
素材についての
科学的知識も
必要です





